

# 研修医通信 Vol. 79 2017年6月号

東京大学医学部附属病院 2年目初期研修医 大山悠  
指導医 辻正範先生

東大病院研修医2年目の大山です。

6月に紀南病院内科で、一か月間研修させていただきました。

妻同伴で来たこともあり、寮の生活環境についてなど事務の方々にはとてもお世話になりました。五郷町に夫婦ともども車で連れて行ってくださって、きれいな蛍を見ることができ三重に良い思い出が出来ました。

研修については、指導医の辻先生に教わり、病棟では超高齢者の方の入院管理、退院調整について一から十までご指導頂き、非常に勉強になりました。救急外来では、急性期脳血管疾患など東大病院ではほとんど経験できないような症例や、プライマリ・ケアとして重要な症例を多数経験させていただきました。カンファレンスに上がる症例数も非常に多く、あまり出会うことのない疾患の診療方針についても多く学ぶことができました。また東大病院と異なり、各部署間の垣根が低く、様々な部署にお邪魔しました。エコー研修、細菌検査室でのグラム染色、透析回診、褥瘡回診など、幅広く経験を積むことが出来ました。

一ヶ月と短い間でしたが、温かく受け入れて下さりありがとうございました。紀南病院という、地域の中核病院で行われている医療と、自治医大の先生方の姿勢・環境について、多くのことを知ることが出来ました。今後はこの経験を活かして、医師として広い視野で診療、研究に当たっていきたいと思います。



伊勢赤十字病院 2年目初期研修医 古崎陽一  
指導医 増田考祐先生

1か月研修させていただきました、古崎陽一です。現在は伊勢赤十字病院で研修していますが、出身大学が自治医科大学ということで来年からお世話になる可能性があるため、今のうちに来年どのようなことが求められているのかを学ばせていただきたいと思います。研修させていただきました。

伊勢赤十字病院では、誤嚥性肺炎や尿路感染症といった一般内科症例は、救急外来当番の先生の科で受け持つことになるのですが、紀南病院で経験した脳梗塞、間質性肺炎増悪、結核、イレウスといった症例は、伊勢赤十字病院では専門科へコンサルトし、その科へ転科していきます。一般内科症例にとどまらず、専門的かつ幅広い知識が必要なのだと痛感しました。

また、伊勢赤十字病院は急性期病院であるため、急性期の治療を終えた患者さんは、近くの療養型病院へすぐに移っていくか自宅へ退院されていき、病院で亡くなるのは急性期治療中の患者さんだけでした。紀南病院では、急性期の治療を終えられたものの、認知症の進行や筋力の低下で嚥下機能が低下してしまい、食事をとることができなくなり、最期を迎えられるという患者さんがいらっしゃいました。患者さんのご家族に、「口から食事をとることはできない」と伝え、今後の栄養摂取方法について相談するICは今後の自分が行っていくICに活かしていけると思います。

1か月という短い期間でしたが、紀南病院での研修で学んだこと、至らないと思い知らされたことを今後の研修に生かしていきたいと思っています。

お世話になりました紀南病院、患者さんとそのご家族の方、本当にありがとうございました。

